

エピソードNo.1【mokaさま】

私の両親は普段から特別仲がいいというわけではありません。

普段は出来るだけ顔を合わせたく無いような素振りで別の部屋に居たり、私たち姉妹にお互いの愚痴を言う事も少なくありません。

時には大きな喧嘩をする事もあります。私は三姉妹の長女で、今年二十歳になりました。

私が小さい頃の両親は仲が良く見えていたのですが、私が小学校に上がったくらいからは喧嘩が増え、複雑な気持ちでした。

しかし、先日何気なく見ていた両親のやりとりから、これまでたくさんの時を過ごし、苦楽を共にしてきた両親の本音を見ることが出来たような気がします。

私たち家族は車で旅行をすることが多いので、SA・PAにお世話になる事も少なくありません。普段車の運転中はお互いに気が立っているのか、道を間違えてしまった時など、心なしかいつもより喧嘩が増える気がします。SAでの休憩の時も、お互いに別のお店に入り娘たちに文句を言っていました。

いつもの事ですが、文句を聞かされる私たちも大変です。お互いにいくつか必要なものを買って、車に戻った両親ですが、なんとお互いにコーヒーを買っていたのです。

両親は大のコーヒー好きで、いつもSAではホットコーヒーを買います。いつもならばどちらかがひとつ買い、2人で飲んでいるのですが、今日は喧嘩をしていたのでそれぞれが自分で買ったのだらうと私は思いました。しかしその時父が「お前が飲むと思って買ってきた、ミルクはひとつで良かったか？」と聞きました。

そして母も「私もあなたが飲むと思って買ってきたのに」と言いながらも「ありがとう」と言ってお互いにコーヒーを交換していました。

私は、お互いに文句は言いながらも、謝りたかったのかなと思いました。その後飲み物を差し出すタイミングなど、助手席の母と運転席の父の息はぴったりでした。

私はこれまで文句ばかりで仲が悪いと思っていた両親は、実はとても仲が良く、

私が知らないようなもっと深いところで繋がっているのかもしれないと感じ、心が暖かくなりました。

私もこんな関係を築ける人を見つけたいです。

エピソードNo.2【ケポさま】

30代最後の年でした。相手は紹介で知り合った同じ年の女性。おっとりした感じのとても優しい人です。

一緒に遊びに行くようになり半年が経った頃、外食しながらカーブが3連覇した試合を応援した帰り道に、私から告白しました。

私はカーブのお陰で強気でしたが、「返事を待って欲しい」が彼女の返事でした。それから1ヶ月程経ち、竹原市に遊びに行った帰りの高速道路での事です。

夜の駐車場に立ち寄った際、車中で彼女が話し始めました。自分が病気を抱えている事。一緒に暮らす高齢のお母さんの事。私と付き合う事による心配を話してくれました。

私はそれが何の問題でもない事を伝えました。その日が記念日。駐車場が初めて手を繋いだ場所になりました。

今、その女性は私の妻となり、彼女のお母さんと3人で賑やかに暮らしています。

エピソードNo.3【yunppiさま】

今から28年前の3月、大阪の実家に出産の為に里帰りしていた私は、まだまだ寒さ厳しい転勤先の長野県松本市に、3ヶ月になった長男とようやく帰ることになりました。

松本から車で迎えに来てくれた主人と、出来るだけゆっくり安全に帰りました。

8時間が9時間ぐらいかかったでしょうか？主人も一人での運転で、本当に大変だったと思います。

子供が途中でグズらないよう、車の中にクルクル回って音が鳴る慣れ親しんだメリーを、何とかくりつけてセットしたおかげか、おとなしくいい子で道中を過ごしてくれました。

そんな頑張ってくれた主人も、23年前の2月に突然の交通事故の為に、あの時の6歳になった長男と、4年後に生まれた2歳の次男をのこし、37歳の若さで帰らぬ人となりました。

子供たちは母子家庭で育てましたが、全くグれることもなく、立派に成長しました。良い子たちです。今

でも、高速道路を通る度によみがえる主人との懐かしい大切な記憶、思い出です。

エピソードNo.4 【ニッタさま】

車の運転が得意な彼とあまり、運転が得意ではない私。遠距離恋愛で結婚し、20年になりました。恋愛時は私は助手席で手を繋ぐのが当たり前でしたが、家族が増えると後部座席へ座ることが多くなりました。現在は娘が助手席へ。主人とのやり取りを微笑ましく眺めています。家族のために行きたいところはどこでも連れて行ってくれる人です。今日も進学で一人暮らしする娘を助手席に乗せ、運転してくれています。いつか、また、私が助手席に座るようになればその時は、家族のために頑張ってくれた夫の手をしっかり繋ごうと思っています。

エピソードNo.5 【あーりおさま】

主人が出張に行くたびに、あるSAで販売しているチーズのお菓子をお土産にリクエストしていたのですが、いつも買えなかった〜とフラれ続けていました。主人はチーズが苦手だし、面倒なんだろうな〜と思い出した矢先、つい先日旅行で立ち寄ったのでやっと購入出来ました。すると店員の方が「今回は買えましたね〜」と…。店員さんと顔見知りになる程立ち寄ってくれていたんだな〜と、嬉しくなりました。パパ、ありがとう!!

エピソードNo.6 【くまちゃんさま】

まだ子供が生まれる前、松山にいた頃の事。テレビで、高知市内の屋台の餃子が美味しいという放送を見ました。金曜の夜、帰って来た主人に、「こんなテレビを見たから行ってみたい」と話すと、「じゃあ、今から行こうか」と言うので、部屋着みたいな格好のまま出掛けました。30分経っても1時間経っても着かず、「まだ遠いと?」と聞いてみると、なんと100km以上あり、2時間半もかかるとの事!! そんなに距離があるとは思っておらず焦る私に、主人は笑いながら運転していました。やっと着いた頃には日付も変わっていましたが、美味しく餃子を食べ、遅くなったのでそのまま高知に泊まりました。翌日、せっかくの高知観光なのに、ドラえもんみたいな大きなポケットがついたジャンバースカートを着て、恥ずかしがりながら歩く私を見て、また主人は笑っていました。主人は、最初から距離も時間もかかると分かっていたいながら、とっぴなことを言い出す嫁を楽しみながら運転してくれていたのだなあ・・・と、嬉しく思いました。

エピソードNo.7 【みかんさま】

夫の国は左運転ですが、日本の右運転でも知らない土地でも迷うことなく上手に運転してくれるので安心です。ただ、夫の母国はSAが少なく、疲れた時は居眠り運転が怖くて、ついつい言い合いになって...ということも。SAの数も少なく、本当にトイレとガソリンスタンドだけしかないので、いつも日本のSAがいかに素晴らしいかを夫婦で実感します。日本の高速を運転している時は喧嘩になっても、SAで一時休戦、その土地限定の食事を楽しんだり、足湯に入ったりできるので夫もSAを楽しみに運転しています。特に夫の好きな牛乳やソフトクリーム、温泉が付いているおかげで、休戦後は言い合いしていたことも忘れ、夫婦仲良くドライブを楽しんでいます。今年は出入国が出来ず、夫婦一緒に過ごせないのは残念ですが、落ち着いたらまた夫婦仲良くドライブデートや旅行を楽しみたいです。

エピソードNo.8 【あやさま】

子供が産まれたばかりの頃、初めての育児に奮闘する私のために、疲れて仕事から帰ってきてもすぐに子供のお世話を優先してくれたこと。「お母さんは子供が一番大事だけど、そんなお母さんがお父さんは一番大事だよ」と言ってくれたことが、涙が出るほど嬉しかった。コロナの中出産した為、産前産後の半年間、外食が出来なかった私を、ドライブついでにSAのレストランでのんびり食事をさせてくれてありがとう。いつも気にかけてくれる優しい夫と子育てが出来て幸せです。

エピソードNo.9 【まなみんさま】

婚約前、主人のご家族へ挨拶に行った帰り道。名古屋から長旅の運転に疲れてきた頃、小谷SAに到着。帰り道もどこか緊張していた私でしたが、賀茂川荘のレストランに座った瞬間、緊張がほぐれて涙がポロポロ。生まれ育った町のお味噌汁の味は、母の優しさを思い出させてくれ、新たに母になる私への決意に背中を押していただいたようでした。忘れられないなあ。

エピソードNo.10 【あかりんさま】

結婚で、実家への帰省に高速道路を使うことになりました。毎回西紀インターに立ち寄り、地元の焼物を買いました。はじめは夫婦茶碗からはじまり、小鉢、小皿、実家に帰省するたびにお揃いで揃えました。結婚して10年、今回は2回目のご飯茶碗を買いました。夫婦の歴史の中に西紀のサービスエリアがあります。。

エピソードNo.11 【マミーさま】

結婚前のプロポーズ。これからもずっとオレの助手席に乗ってください。普段はそれぞれの車を運転。でも高速道路でいつも隣にいるのは主人でした。子供が生まれ成長するにつれ、私は後部座席専門になりました。パーキングでは、お決まりのご当地名物珍味、ソフトクリーム、コーヒー。今回、主人と2人で旅行し助手席に振り返り懐かしいプロポーズの言葉を思い出す事ができました。助手席もつかの間、次は孫たちに助手席を譲る時期になり、パーキングでは賑やかに大盤振る舞いのじいじとばあばです。。

エピソードNo.12 【豊後のまほろんさま】

数年ほど前まで熊本に住んでいました。当時付き合っていた彼と高速道路を使って大分へ行く際は必ず早朝に出発、そして別府湾SAであったかいうどんをのんびり食べるのが私たちの旅行の定番でした。朝の霧やしとしと降る雨を目で楽しみつつ、今日の別府の湯煙はどうか？と言葉を交わしつつ食べるうどん、体も心もぼかぼかになった良い思い出です。今は夫婦となり縁あって大分に住んでいます。そしてたまの遠出の朝はもちろん別府湾SAでうどんを食べています。(わたしのオススメはきつねうどんです)

エピソードNo.13 【あかねさま】

私たち新婚ほやほやの2人は、熊本県と福岡県にそれぞれ住んでいました。彼は、毎週日曜日朝から車で福岡まで逢いに来てくれ、片手にはSAで購入した熊本のお土産を携えて。私たちは、世でいうスピード婚。出会ってから、二ヶ月半で入籍しました。私に、結婚を決意させたのは熊本の主人の実家に行った帰りのこと。福岡に向かう車内でスコールのような土砂降りの雨にあい、これは帰りが危ないと感じ、私の実家に泊まり、翌朝熊本まで帰って行きました。その朝初めてお弁当を作り持たせたわたし。主人は、とても嬉しそうにニコニコしてお弁当を受け取ると車に乗り出勤して行きました。高速に乗り、これから熊本に帰り仕事をする主人のことを思い毎朝お弁当を作ってあげたい！そう感じてのスピードでした。もうすぐ半年が経ちますが、福岡に帰るときはSAに寄り、熊本銘菓の栗千里を父に買って帰るのが夫婦の恒例になりました。父は、いつも栗千里を食べながらニコニコして私たち夫婦のノロケ話を聞いてくれます。

エピソードNo.14 【カンナさま】

SAでお見かけしたご高齢の男性。SA名物のソフトクリームを両手にひとつずつ持って、立ったままぼんやりしていらしたので少々心配になりお声がけすると、「婆さん(奥様)が中で買い物してるから待ってる」とのこと。ほどなく現れた奥様はこれまた両手に同じソフトクリーム。どうやら中と外でお互いのためにソフトクリームを購入していたご様子で、にこにこ笑いながら「長い間一緒にいると好み相似的なんだよなあ」と余った二つを我が子に譲っていただきました。素敵なお夫婦に出会った思い出です。

エピソードNo.15 【もちパンダさま】

まだ夫と付き合い始めの頃、高速道路を使ってデートに出掛けていた時には毎回同じSAに立ち寄り、ドライブのお供に外売店の大好きな小さい肉まんのような小籠包を3個買うのが定番になっていました。夫と一個ずつ食べて残りの1つは半分こ。冬は特に暖かい気分になりました♪昔は3個だったのも今では子供3人に恵まれ買うのは10個でも足りないぐらいに。今でも家族のドライブの定番で買う個数がどんどん増えていった分幸せも増えていった気がします♪

エピソードNo.16 【元亀さま】

主人の実家は鹿児島。毎年、お盆とお正月を鹿児島で過ごす為に渋滞覚悟で福岡から鹿児島までの運転を主人はがんばってくれました。SAでの食事は、いつも楽しみでした。PAで30分ほどの仮眠をとるのもお決まりコース。今年、免許をとった息子が運転する車の助手席で、うとうとする主人を見ると、今まで23年間も家族のために運転してくれた主人に感謝の気持ちでいっぱいになりました。お父さん、これからは、息子に甘えて楽しんでね。

エピソードNo.17 【けいさま】

結婚して知った夫の習性。SAに寄るといつもソフトクリームを食べる。何だかおかしくて、いつも笑ってしまう。暫くして、夫の両親と出かけた。SAで「おとうさん、サービスエリアに来たらいつもソフトクリーム食べるんよ。おかしいでしょ。」とニコニコ笑って義母。親子で同じ習性にまた笑えた。数十年後、私たちも両親のようなあたたかい夫婦になれてればいいなと思った。